

特定非営利活動法人地球と未来の環境基金

令和3年度事業報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

◆事業の成果

本年度実施した事業は下記の通りである。

（1）国内森林保全事業

- ・ 岩手 西和賀町での植樹地メンテナンス事業 P2
- ・ 千葉 君津市での植樹地メンテナンス事業 P3
- ・ 静岡 川根本町での森林整備事業 P4
- ・ 奈良 吉野町での植樹地メンテナンス事業 P5
- ・ 広島 竹原市での植樹地メンテナンス事業 P6
- ・ 新規案件への対応等調査事業 P7
- ・ 千葉 君津市での自然体験活動拠点の基盤整備事業 P8
- ・ 間伐材利用促進事業（結糸プロジェクト） P9

（2）海外環境保護事業

- ・ ブラジルでの水源涵養林作り支援事業 P10

（3）環境助成金プログラム支援事業

- ・ 環境NGOの組織基盤強化助成の総括事業 P11
- ・ 失業者を救う自伐型林業参入支援事業（休眠預金等活用事業） P13
- ・ 地域の森林を守り育てる生業創出支援事業（休眠預金等活用事業） P14
- ・ 廃炉・汚染水対策事業（経済産業省 資源エネルギー庁） P15
- ・ 原子力産業基盤強化事業費補助金（経済産業省 資源エネルギー庁） P16
- ・ 原子力の安全性向上に資する技術開発費補助金（経済産業省 資源エネルギー庁） P16
- ・ 社会的要請に応える革新的な原子力技術開発支援事業補助金（経済産業省 資源エネルギー庁） P16

◆2021年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧 P17

1) 国内森林保全事業

【岩手 西和賀町での植樹地メンテナンス事業】

8 月 7 日（土）、岩手県和賀郡西和賀町において、地元の「西和賀森づくり隊」を中心に植樹地の下草刈りを行った。

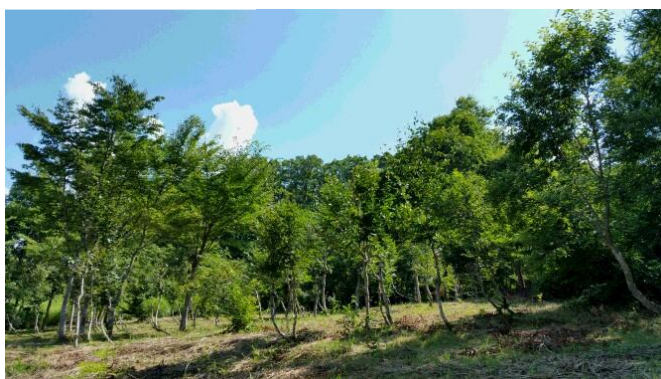
当地はザ・バックフォレスト活動 1 号地として、2001 年 6 月に開始した場所、コナラ 300 本、ブナ 250 本、ケヤキ 50 本を植えた。2021 年はちょうど植林 20 年になる。植樹場所は表土を削った粘土質の荒れ地だったため生育を心配したが、コナラは順調に生長、ブナとケヤキは緩やかな生長を遂げている。ここは積雪 2m を超える豪雪地帯、雪の重みで幹や枝が大半折れてしまう。ここまでにしたのは 1 本 1 本柱に固定して支えてきた成果である。今後の活動は、枝打ちや間伐（間引き）を中心に行う予定である。



植林 2001 年 6 月



2011 年 7 月 植林 10 年目



2021 年 8 月 植林 20 年目



看板廻りの草を刈って終了した

【千葉 君津市での植樹地メンテナンス事業】

本年度は「豊果(ゆたか)の森」で活動を実施した。豊果の森には、2009年2月と2011年3月の二度にわたって、果樹を中心に200本植えた。ここは林道建設時の残土を埋めたところで、とてもゆたかとは言いがたい堅い粘土質土壌であるが、いずれは果樹が豊に実る森になるようにと名付けた。

下草(茅)を刈るのがこれまでの主な活動だったが、本年度初めて梅を収穫した。6月初旬に青梅を5kg、終盤には黄梅を10kgほど収穫、青梅は梅酒とジュースに、黄梅は梅干しとジャムを作った。梅については今後毎年収穫が期待できそうなので、伸び放題になっている枝を剪定して収穫しやすい樹形に変え始めた。これは、1月28日、2月5日、2月16日の3日間実施した。

柿は10年経っても丈が2-3mにしかならず、まだ実がついたことがないので、初めてバーク堆肥を施肥、3月20日と21日行った。堅い粘土質土壌で鍬もスコップも刃が立たずツルハシを使った。道は遠いが続けたいと思う。



6月8日 梅の木
木はまだ小さいがよく実った



7月23日 梅干し
梅雨明けの晴れの日在天日干し



2月16日 柿の木の根元に施肥、
堅くてなかなか掘れない



3月21日 梅の木下草刈り
草(茅)は畑の敷き藁に利用する

【静岡 川根本町での森林整備事業】

◆ 大井川の水源涵養能の向上を目指した森林整備活動

本事業は、2019 年度より中外製薬㈱の協賛を得て、大井川の水源涵養能と強い保土力の向上を目的に、地元 NPO かわね来風と共催で取り組んでいる森づくり活動である。初年度は間伐体験イベント「川根 GREEN PARTY(間伐編)」を実施したが(中外製薬㈱の藤枝工場社員と家族 29 名が参加)、昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響のため、今年度も参加者を多く集める活動は中止としている。

しかし、大井川流域の川根本町内でなんらかの活動を支援したいという同社の熱い希望により、地元 NPO かわね来風への業務委託という形で、川根本町 1 号植樹地(上長尾／2013 年 3 月植栽)と 2 号植樹地(田野口／2014 年 3 月植栽)の下草刈りおよび灌木の除去活動を実施した。ところどころで枯死してしまっている苗木もあるが、全体的には概ね順調に生育している。中外製薬㈱からは引き続きご協賛いただけるとのことで、補植を含めて丁寧な育林に努めて行きたい。

なお、川根本町 3 号植樹地(尾呂久保／2015 年 4 月植栽)は、鹿の食害により苗木がほぼ全滅してしまっていた。コロナ禍が無事に明けたら(2023 年 3 月が理想)、中外製薬㈱の工場社員と家族が参加できる再植栽イベントを開催したい。



◆ 木エワークショップ「木にふれて森の声を聞こう！ 間伐材でつくるオーナメント&バードコール」

間伐体験イベントが開催できなかった代わりに開催する、川根本町の間伐材を利用した木エワークショップ「木にふれて森の声を聞こう！ 間伐材でつくるオーナメント&バードコール」に協力した。

◇ 日 時： 2021 年 12 月 19 日(日) (1)10:00-11:30 (2)14:00-15:30

◇ 場 所： 3331 Arts Chiyoda (千代田区外神田)

◇ 主 催： アーツ千代田 3331 ◇ 協 賛： 中外製薬㈱ ◇ 協力： NPO 法人地球と未来の環境基金



【奈良 吉野町での植樹地メンテナンス事業】

◆ 世界(文化)遺産吉野の山の森林保全事業(PAL 植樹地メンテナンス)

2010 年 11 月より、株式会社パル、町内の山林所有者北岡本店、吉野中央森林組合、ザ・パック株式会社と 5 者協定「世界(文化)遺産吉野の山の森林保全と育成を目的とした「PAL／フォレスト植林」」を結び、生物多様性の森への保護と育成を目指して、緑の保全活動と植林事業を展開している。

例年、(株)パルとザ・パック(株)より計 30 数名程度の社員ボランティア参加のもと、植栽地のメンテナンス(下草刈り、枯れた苗木の植え替え、鹿の食害防除ネット(サブリガード)の補修など)に取り組んでいるが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大に配慮して、ボランティアを受け入れて実施する奈良県吉野町の活動(間伐体験イベント「元気森・MORI in 吉野山」を含む)は見送りとした。植栽地のメンテナンス作業は、地元パートナーである吉野中央森林組合に委託して実施した。吉野中央森林組合のメンテナンス作業が終わった後に、EFF2 名(古瀬・美濃部)が本植樹地の状況を視察した。

● 地元森林組合にて実施している植樹地の保全作業について

実施日：2021 年 8 月、10 月

作業内容：植樹地全体および苗木周辺の下草刈り、倒れた苗木のメンテナンス

● 植樹地の視察について

実施日：2021 年 11 月 2 日(火)

視察者：古瀬繁範(理事長)、美濃部真光(理事)

植樹地の状況：道路上方サイトの一部(斜面右手)、下方サイトの一部(最下部)の日当たりが悪く、生育不良の苗木が散見される。今後、補植が必要になると考える。

(参考) 植樹地について

場所：奈良県吉野町千股(平成 23～26 年の間に広葉樹植栽施業の森林)

植栽実施年度と樹種 & 本数：

2011 年(H23)… アンズ／20、スモモ／20、ヤマモモ／20、カリン／20、クワ／10、ナツグミ／10

2012 年(H24)… ヤマモモ／30、アンズ／30、イロハモミジ／20、ソメイヨシノ／20、ソメイヨシノ／1

2013 年(H25)… アンズ／30、ヤマボウシ／30、ヤマザクラ／20、イロハカエデ／20

2014 年(H26)… サンシュ／15、ソメイヨシノ／15、ヤマボウシ／10



道路上方サイト



道路下方サイト

【広島 竹原市での植樹地メンテナンス事業】

竹原市でのフォレスト活動は、今年度も新型コロナウイルス感染拡大が収まらず、広島県下にもまん延防止等重点措置が発令されていたこともあり、一般ボランティアおよびザ・パック社員ボランティアその他協賛企業社員の参加によるイベントは全て中止となった。

2020年3月に「平成30年7月豪雨」によって土砂が流出、斜面の崩落などが発生した竹原市高崎町のバンブージョイハイランド公園付近の山林で実施した植樹地（注）約0.1haでの下刈りは苗木保育のため必要なため、尾三地方森林組合に委託し、実施した。また、過去に植樹した場所の下刈りについては、今年度は一旦見送り、来年度以降苗木の生育状況を見ながら再開する予定である。

（注）2020年2月27日に政府から大規模イベントの自粛要請が出されたことから一般ボランティア参加での植樹イベントは中止とし、植樹場所の地拵えや苗木の調達は既に終わっていたことから、苗木は尾三地方森林組合に委託して植え付けを行なった。



（写真）「平成30年7月豪雨」の被害地で植えた苗木。森林組合に委託し、下刈り実施後の様子。

苗木はまだ植えた時とあまり変わらず小さいが、しっかり根付いている。

【新規案件への対応等調査事業】

新型コロナウイルスの感染拡大で多くの活動が停滞する中、今年度はザ・パックスフォレスト活動で新しい取り組みの芽も出て来た。同社クライアントの「パーリーゲイツ」ブランドを展開する株TSI ホールディング(<https://www.tsi-holdings.com/brand/PG/>)の社員や将来的にはお客様も参加する取り組みとして、植樹活動を行いたいとの希望が寄せられ、植樹ができる場所のリサーチ、折衝などを行った。

植樹活動を行う場所として、ゴルフ場が多く点在する栃木県と千葉県が候補として挙げられ、Web サイトで各県の公的機関が実施する企業の森などの情報を収集し、ザ・パックス及び TSI ホールディングと協議、一定地域を絞り込んだ上で、当該地域の関係機関に打診、現地調査に出向いた。実際に現地調査に出向いた地域と現場概要は以下の通りである。

■ 栃木県鹿沼市

地 籍： 市有地 ※所有者および管理者： 鹿沼市
面 積： 15.74ha
概 況： スギ、ヒノキの高中木中心として、広葉樹も混じる。

■ 栃木県烏山市

地 籍： 市有地 ※所有者および管理者： 那須烏山市
面 積： 複数場所あり(No.19…1.13ha、No.20…0.99ha、No.21…2.11ha)
概 況： 道路整備計画がとん挫した遊休地で元は農地で雑草が繁茂している。

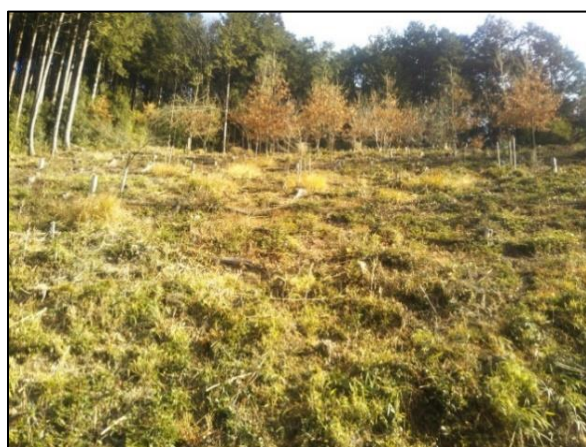
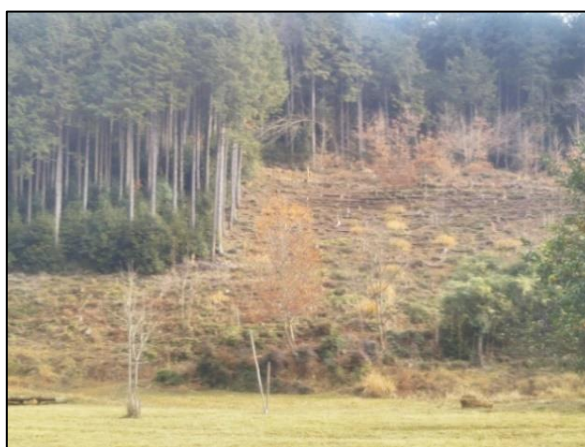
■ 千葉県富津市

地 籍： 県有地 ※所有者および管理者： 千葉県
面 積： 数区画あり(A:1.30ha、B:1.60ha、C:1.30ha、E:1.00ha、F:0.60ha、G:0.40ha)
概 況： 松くい虫被害で枯れた海岸林で、灌木が繁茂している。

■ 埼玉県日高市

地 籍： 私有地 ※所有者および管理者は隣接地に居住
面 積： 約 0.12ha
概 況： 樹種転換による広葉樹植樹済。獣害等で一部補植が必要な状況。

協議の結果、埼玉県日高市での実施に向けて、関係者の現場視察など予定していたが、2022 年 1 月に入り新型コロナウイルス感染拡大によるまん延防止等重点措置が発令されたため、今年 3 月の実施は延期となった。



写真は埼玉県日高市の候補地。左写真手前の整備された芝生も地主の土地。右写真上方のクヌギはよく成長しているが、下方はほぼ枯れ苗木がなくなっている。

【千葉 君津市での自然体験活動拠点の基盤整備事業】

自然体験、特に農体験できる場作りとして、初年度はほぼ基盤整備を目標に実施した。

600㎡の竹林をまずは人力で竹を伐採して片付け、それから重機を使い竹根を掘り片付けた。5月からサトイモ、大豆、キュウリなどの夏野菜を植え付けした。結果、一部の夏野菜を除いて出来は悪かった。サトイモは植え付けが遅かったこともあるが途中イノシシに掘られたことも影響した。が、最大の原因は陽当たりの悪さかと思われる。特に秋冬ものには大きく影響した。夏以降に植えた白菜、カブ、ほうれん草、人参は生育不良。南側に樹齢50年以上の杉の大木がずらりと並び、太陽軌道の低くなる秋以降はほとんど陽がささず、冬場は霜柱が凍ったまま溶けない有様である。現在、次第に陽が高く暖かくなったことで秋から冬に植えた、タマネギ、ニンニク、ソラマメ、インゲンの収穫を心待ちしているところである。

作業には定期的に助っ人が参加し、一年通じて賑やかに活動できた。その助っ人を中心にイベントを実施した。沢庵や切干し大根づくり(1月)、竹炭焼き(3月)を行う。味噌づくり(3月)は参加者9人で34kgの出来だった。また、1年間地元の人たちとの交流を通じて、新しい畑(耕作放棄中の450㎡)を貸していただくことになり、2年目圃場の条件は格段に良くなることとなったのでさらなる飛躍を遂げたい。



竹伐採の跡、竹の切り株が点在している



竹の切り株の脇で最初に植えたサトイモ、大豆、夏野菜



沢庵用に大根を干す、青い籠は切干し大根



竹炭焼き、穴を掘って伏せ焼き

【間伐材利用促進事業（結糸プロジェクト）】

奈良県吉野町の間伐材を原料で製造した「結糸」(YOUITO)は、既存の販売先等へ在庫商品を販売して行くことに限定して対応した。

ブックカバー、ペンケース、ご祝儀袋の 3 商品については、フェアトレード商品やオーガニック食品など扱う通販サイト SoooooS(運営会社: <https://soooooos.com/>) のみで販売を継続した。

この他、オーガニックコットンの帽子を企画、製造している株式会社キャナルから製品開発の打診を受け、生地を販売、2022 年 3 月に 3 商品(写真)がリリースされた。キャナルへ納品した生地をもって生成りの生地在庫は完売した。

期末時点での棚卸商品額は以下の通りとなっている。

- 商品: 501,087 円
- 生地: 109,539 円 計 610,626 円

引き続き在庫の現金化に努めて行く。



(キャップ)



(セーラーハット)



(ブレードハット、2色展開)



キャナルとの上記コラボ商品は以下の Web サイトでオンライン販売されている。

<https://www.canal-sign.jp/>

（2）海外環境保護事業

【ブラジルでの水源涵養林づくり支援事業】

ブラジルにおいても 2021 年は引き続き新型コロナウイルス感染拡大の深刻な状況が続く中、カウンターパート NGO「アマゾン森林友の協会（ASFLORA）」では、事務所を置いている JK 農工専門学校が対面での授業を再開したことに伴い、学校と連携した活動を活発に展開している様子であり、折々ニュースレターなどで報告をいただいている。

昨年度 2020 年 12 月、国土緑化推進機構（緑の募金）の助成等で植樹したサンタバルバラ郡のエスベジット・リベイロ入植地の水源涵養林の植樹地では、植樹後不足している有機質を投入したり、下刈りを実施したりするなど、ASFLORA スタッフの尽力で保全活動を行っていただいた。

この他、新たに植樹地を拡大するため、（公財）日中友好会館が運営する「日中植林・植樹国際連携事業」の助成事業（注）へ応募することを ASFLORA の佐藤代表と検討、ブラジル側で事業計画を策定、諸々準備をいただいたが、準備が間に合わず今年度の申請は見送った。次年度に向けて再度準備を進める。

（注）同事業では、助成対象を「中国並びに第三国における地球環境問題の解決に向けた植林事業及びこれに付帯する事業」としており、2021 年度の助成事業として交付決定された 14 案件の半数は中国、半数はそれ以外の国での植樹事業。



（写真左）2020 年 12 月から 2021 年 2 月にかけて植樹した場所の最近の様子。1 年余り経過して、既に看板の高さを超えている。



（写真右）2021 年 2 月植樹作業後の ASFLORA メンバーとボランティア。右の写真と比較すると 1 年の成長量を実感。



（写真左）植樹地の内部。地域の固有種であるインガ、アサイ、タタジュバなどが育っている。



（写真右）エスベジット・リベイロ入植地にあるため池。水源涵養林の育成はこうした水源の維持に不可欠。

（3）環境助成金プログラム支援事業

【環境NGOの組織基盤強化助成の総括事業】

前年度までパナソニック(株)との協働で実施して来た NPO/NGO の組織基盤強化を支援する助成プログラム『Panasonic NPOサポート ファンド』は、全ての業務を終え、契約も満了となったことから、書類やデータの整理、引き渡し、廃棄など行った。また、これまでの助成事業の総括的な取り組みとして、今年度はパナソニック組織基盤強化助成 20 周年を記念して同社が主催するシンポジウム・ウィーク「NPO/NGO の組織基盤強化を考える 4 日間 ～社会変革を生み出せる組織へ～」の共催団体として、企画の検討段階から当日の実施運営に参画した。

EFF が Panasonic NPO サポートファンド(環境分野)の協働事務局を務めた 2002～2020 年の約 20 年間で、のべ 150 団体の NPO/NGO の組織基盤強化事業を支援してきており、助成総額は 2 億 3000 万円超に上る。この度のシンポジウム・ウィークの環境分野セッションには、その中でも特に高い成果を収め、以降も強化した組織基盤をもとに大きな成長を遂げられている 3 団体からそれぞれのキーパーソン 3 名と深尾昌峰氏(龍谷大学政策学部教授、(株)PLUS SOCIAL 代表)を招聘して、「持続可能な組織運営を目指した NPO/NGO の次世代への承継と事業開発 ～社会の一員として必要とされる団体へ～」というテーマで話を深める時間を設けた。セッションには、企業の社会貢献担当者や中間支援組織スタッフなど、NPO/NGO は環境を問わず様々な分野から、計 183 名の申込みがあり、EFF が関わる本助成プログラム最後の取り組みとして大変盛況に締め括ることができた。

【シンポジウム・ウィーク概要】

＜期間＞ 2021 年 7 月 12 日(月)～15 日(木) 4 日間連日開催

＜対象＞ NPO/NGO、中間支援組織、助成財団、企業の社会貢献担当、行政等

＜費用＞ 無料

＜主催＞ パナソニック株式会社

＜共催＞ NPO 法人市民社会創造ファンド、NPO 法人地球と未来の環境基金、認定 NPO 法人国際協力 NGO センター、認定 NPO 法人サービスグラント、認定 NPO 法人日本 NPO センター、(公財)パブリックリソース財団

【環境分野セッション概要】

＜日時＞ 2021 年 7 月 14 日(水) 13:00～15:30

＜タイトル＞ 「持続可能な組織運営を目指した NPO/NGO の次世代への承継と事業開発
～社会の一員として必要とされる団体へ～」

＜趣旨＞ 環境分野助成の 20 年にわたる組織基盤強化の取り組みの中で、多くの NPO/NGO を悩ませてきた「承継」と「開発」に焦点を当て、学びを深めます。基調講演では、非営利組織のマネジメントを中心に研究されている龍谷大学政策学部教授の深尾昌峰氏から、組織課題解決の支援や政策形成のご経験をもとに、NPO/NGO への社会からの期待、組織基盤強化の重要性、事業承継やソーシャルな事業開発のポイントについてお話しいただきます。事例報告では、助成先 3 団体から、助成事業の内容と成果、そして助成終了から数年が経った今、団体にどのような変化をもたらしたのかを発表いただきます。パネルセッションでは、特に「事業承継」上の課題をどう乗り越えたのか、また、「事業開発」が持続可能な組織の成長・発展にどう貢献したのかについて深めていきます。

<プログラム>

1. 開会とあいさつ
2. Panasonic NPO サポートファンド 20 年の振り返り
3. 基調講演「持続可能な組織運営を目指した NPO/NGO の次世代への承継と事業開発」
・深尾昌峰 氏（龍谷大学政策学部教授、株式会社 PLUS SOCIAL 代表取締役）
4. 助成先団体によるプレゼンテーション
・村上健太郎 氏（NPO 砂浜美術館 理事長）
・小倉加代子 氏（自然再生センター 副理事長）
・中島佳織 氏（フェアトレード・ラベル・ジャパン シニアディレクター）
5. 上記登壇者 4 名によるパネルセッション&質疑応答
6. 閉会のあいさつ

上記の他、近畿エリアで環境団体の中間支援活動を展開している NPO 法人近畿環境市民活動相互支援センター（エコネット近畿）から Panasonic NPO/NGO サポートファンドの取り組みについてセミナー・講演形式で話を聞かせて欲しいとの打診があり、これに対応した。具体的には「助成サミット 2021」と題して、主な参加者は環境活動や団体に対する助成事業を行う財団等の担当者で、計 2 回のセミナーが開催され、その第 2 回（注）でパナソニック株の助成事業の責任者であった東郷琴子様と一緒に登壇し、約 20 年の組織基盤強化助成について制度の企画開発の経緯、運営上の工夫などを説明した。

参加者が日頃助成プログラムを運営している財団等の事務局長クラスの方やスタッフでいわば助成のプロの方々であり、その方々が組織基盤強化というテーマでの助成プログラムに高い関心を持っていただいたことは率直に有難かった。20 年前にスタートした当時は組織基盤強化をテーマとして助成プログラム自体皆無で、色々苦心しながらパナソニック株とまさに文字通り「協働」しながらプログラムを開発、運営して来た。結果として団体の成長にも資する得難い経験と実績に繋がったことは、その後当団体が国の補助金管理や休眠預金事業を担っていることから明らかであろう。

注）第 1 回（8/24）開催は環境 NPO の運営者（理事長等）が登壇、活動の現場が抱える課題、悩み、助成財団へ希望する事柄などについて意見交換がされている。

【助成サミット 2021 第 2 回概要】

<日時> 2021 年 11 月 18 日（木）14:00～16:00

<開催形式> オンライン

<主催> NPO 法人近畿環境市民活動相互支援センター（エコネット近畿）、NPO 法人北海道市民環境ネットワーク（きたネット）、NPO 法人地域の未来・志援センター

<タイトル> 「パナソニック NPO/NGO サポートファンド for SDGs から学ぶ、環境市民団体に必要な支援とは」

<プログラム>

1. 開会挨拶
2. 話題提供「NPO/NGO の持続的な発展を応援する組織基盤強化」
Panasonic NPO/NGOs ポートファンド for SDGs
・東郷琴子氏（パナソニック株オペレーションエクセレンス社 企業市民活動推進部 主幹）
・古瀬繁範氏（NPO 法人地球と未来の環境基金 理事長）
3. 質疑応答、グループディスカッション

【失業者を救う自伐型林業参入支援事業（休眠預金等活用事業／コロナ枠）】

2020 年度より休眠預金等活用事業（新型コロナウイルス対応緊急支援）の資金分配団体に選定され、（特非）自伐型林業推進協会とコンソーシアムを組み、中山間地で自伐型林業を実践する民間公益団体を対象にした助成事業「失業者を救う自伐型林業参入支援」に取り組んでいる。新型コロナウイルスの感染拡大で失業や生活困窮に遭い、新たな仕事として林業就業を希望する人を対象に、経済的・環境的に持続可能で災害に強い森づくり・森林経営手法として注目を浴びている「自伐型林業」の技術研修・経営指導や、地域の持続的な林業を継続するための森林資源活用システムの構築を支援する助成プログラムで、概要は以下の通りである。

＜助成事業の概要＞

【対象団体】 自伐型林業を実践する民間公益活動を行う団体（複数団体によるコンソーシアム可）

【助成期間】 1 年間（2020～2021 年度）※全ての実行団体の事業終了は 2021 年 12 月 14 日

【助成額】 1 実行団体当たりの助成上限額は 1,000 万円/年

本事業の後期に当たる 2021 年度は、各実行団体の助成期間半期を迎えるタイミングで 2 回目の助成金を振込み、またこれまでと同様に引き続き各団体から適宜進捗報告を受け、円滑に助成事業が進行するようにコンソーシアムを組んでいる自伐型林業推進協会と連携して適切なアドバイスを提供したり、事業計画変更の要望に対応したりするなどの伴走支援に取り組んだ。

6 月 29 日には実行団体 5 団体が互いの事業のポイントや悩みを共有するオンライン意見交換会を開催し（通常枠より 1 団体の参加あり）、9～10 月にはオンラインあるいは実際の訪問により実行団体をヒアリングして事業の進行状況を詳しく確認する機会を設けた。そして助成事業終了後には、公開形式の成果報告会を開催し（当日の録画映像を YouTube で公開中）、自伐型林業に関心のある市民に向けて本助成事業の成果を広く報告・共有した。また、各実行団体から提出された精算報告と事業完了報告書の内容について精査し、必要に応じて各団体に対して加筆修正を指示、助成額の確定を行った後、剰余金が発生している団体には返納を要請した。

No.	実行団体名称	所在地	助成確定額	申請事業名称	ヒアリング*
(1)	一般社団法人東北・広域森林マネジメント機構	岩手県	10,000,000 円	東北の森林を活かした生業創出支援事業 ～東北におけるウィズフォレストモデル～	10/8 オンライン
(2)	特定非営利活動法人奥利根水源地域ネットワーク	群馬県	9,877,580 円	自伐型林業で 6 次産業化プロジェクト	11/26 オンライン
(3)	天竜小さな林業春野研究組合	静岡県	9,848,123 円	小規模持続型林業による地域の仕事創出事業 ～地域の未来 山づくり、道づくり、人づくり	10/15 オフライン
(4)	一般社団法人ふくい美山きときとき隊	福井県	10,000,000 円 (注)	森から学ぶ自立に向けた技術習得プログラム ～きっと見つかる私の未来 ♪ 森プロジェクト ♪	10/5 オフライン
(5)	九州地区自伐型林業連絡会	大分県	10,000,000 円 (注)	九州で暮らし環境を守る林業塾 ～九州林業塾	9/16 オンライン
助成総額			49,978,580 円		

注）ふくい美山きときとき隊、九州地区自伐型林業連絡会については未確定につき、金額は助成決定額（団体への振込額）

【成果報告会】

◇ 日 時：2022 年 2 月 7 日（月）19:00～@Zoom によるオンライン

◇ 参加者：実行団体 5 団体、一般参加 14 名（うち、通常枠の助成団体を含む）

◇ ZIBATSU チャンネル：<https://www.youtube.com/playlist?list=PLzuyH5a85Mehe1XXwYN4LRXGFHDninC6v>

【地域の森林を守り育てる生業創出支援事業（休眠預金等活用事業／通常枠）】

当団体では 2020 年度の休眠預金等活用事業（通常枠）の資金分配団体に選定され、（特非）自伐型林業推進協会及びランドブレイン(株)とコンソーシアムを組んで「地域の森林を守り育てる生業創出支援事業」（～2024 年 3 月末）を実施している。事業の趣旨は、少子高齢化、人口減少が進行することにより、活力が失われている中山間地域において、その面積の約8割を占める森林資源に着目し、持続可能な森林施業を可能にする「自伐型林業」の手法等を活用し、地域に住み続けられる半林半Xの生業づくり創出を支援しようとするものである。

助成事業の概要は以下の通りである。

＜助成事業の概要＞

- 【対象となる地域】 日本国内の全域
- 【対象団体】 持続可能な森林資源活用に関心を持ち、中山間地域での生業づくりを実践可能な団体（地域おこし協力隊、地域商社、環境系 NPO 等）
- 【助成期間】 3 年（2021～2023 年度）
- 【助成額】 1 実行団体当たりの助成上限額は 700 万円（3 年間）
※助成総額は 3,500 万円を目途とする
- 【公募期間】 （一次） 2020 年 12 月 26 日～2021 年 1 月 25 日
（二次） 2021 年 9 月 28 日～同年 10 月 11 日

一次募集の応募団体数は 16 団体で、審査の結果 5 団体が内定した。このうち 1 団体は採択条件で合意に至らず内定取消となったことから、9 月に二次募集を実施した。二次募集では、7 団体の応募があり、1 団体の実行団体を選定した。選定した実行団体 5 団体（詳細下表参照）に対する助成決定額（評価関連費含む）は 36,123,200 円である。事業計画等のブラッシュアップを経て各実行団体と資金提供契約を締結し、2021 年度分の助成金を支払った。その後は、コンソーシアムを組んでいる自伐型林業推進協会、ランドブレインが中心となって実行団体の事業に対する適切なアドバイスを提供したり、事業計画変更の要望に対応したりするなどの伴走支援に取り組んでいる。

【地域の森林を守り育てる生業創出支援事業 実行団体】

No.	団体名	所在地	助成額	申請事業名
(1)	合同会社 百	宮城県	7,000,000 円	「食とエネルギーの自給 100%」を体験できるエコモーションの運営と木質資源の新しい価値の創出
(2)	株式会社ワイルドウィンド	京都府	7,336,000 円	自然資源活用での地域生活を目指す方の独立支援事業
(3)	株式会社 FOREST WORKER	広島県	7,226,200 円	林業における複業型就労の提案
(4)	一般社団法人ディバースライン	群馬県	7,336,000 円	森の担い手育成と森・人・地域社会を豊かにする事業
(5)	株式会社皐月屋	鳥取県	7,225,000 円	「人を活かす山を創る」場づくりと自伐型林業人材、複業・兼業人材の創出事業
助成総額			36,123,200 円	

注）助成額は事業と別枠の評価関連経費を含んだ額。

【廃炉・汚染水対策事業費補助金】

当法人では、平成 26 年 2 月より、我が国の科学技術の水準の向上及び廃炉・汚染水対策を円滑に進めることを目的とした「廃炉・汚染水対策事業費補助金」の基金設置法人として、廃炉・汚染水対策に資する技術の開発を支援する事業に対して補助金を交付する事業を実施した。

本補助金の交付規程では、補助事業の完了した日の属する補助事業者の会計年度の終了後 5 年間、補助事業者の毎会計年度終了後 90 日以内に補助事業に係る収益状況について収益状況報告書により基金設置法人に報告しなければならないとされている。平成 27 年度末までに全ての補助事業は終了しており、当法人ではこの規程に基づいて平成 28 年度より収益状況報告書の収受、確認の業務を行なっている。

令和 3 年度は令和 4 年 3 月末までに 2 件の収益状況報告書を収受、確認し、収益が生じたと認められた事業者はなかった。また、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分に係る事案はなかった。

本基金の基金管理を行う期間は、実施要領の定めにより、上記報告に係る業務が終了するまでと定められており、令和 4 年 3 月末日を以て解散となることから、以降、基金の清算手続きに入っていく。

【財産処分の状況】

- 財産処分の報告があった件数： 0 件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 0 円

2011 年の東日本大震災の津波等の影響で発生した福島第一原子力発電所事故は、国際原子力事象評価尺度 (INES) のレベル 7 に相当する未曾有の事故である。その廃炉作業は、この先 30～40 年がかかると目されている。当法人では 2014 年から廃炉・汚染水対策に係る基金管理を担って来たが、これに関連して廃炉等でも不可欠となる原子力技術分野の研究・技術開発・人材育成や技術伝承やサプライチェーン維持を趣旨とした以下の補助金の執行管理業務を前年度から担っている。

【原子力産業基盤強化事業費補助金】

本補助金は、平成 25 年度から基金設置法人として関与して来た廃炉汚染水対策事業の関連事業として、廃炉技術等を支える原子力産業分野の安全性や信頼性を向上させる取り組み、人材育成や技術の伝承、サプライチェーンの維持等を目的とする取り組みに対して、当該経費の一部を補助することを目的とするものである。当団体では本補助金の執行団体として、補助金の事務局を担った。主な執行概要は以下の通りである。

（補助事業の採択件数・金額）

- 補助事業数： 20 事業
- 補助金交付実績額： 746,192,000 円

【原子力の安全性向上に資する技術開発費補助金】

福島原発事故のような過酷事故下では大量の水素が発生し、水素爆破が生じた。廃炉の取り組みは進行中であるが、未だ燃料デブリ回収は目途が立っておらず、過酷事故を起こさせないための対策は不可欠である。本補助金は、安全対策の高度化に関する研究及び開発を促進することを目的としており、我が国における原子力技術の安全水準の向上、信頼回復を図るものである。当団体では本補助金の執行団体として、補助金の事務局を担った。主な執行概要は以下の通りである。

（補助事業の採択件数・金額）

- 補助事業数： 24 事業
- 補助金交付実績額： 572,981,000 円

【社会的要請に応える革新的な原子力技術開発支援事業補助金】

社会的な要請から再生可能エネルギー導入の拡大や電力自由化など社会環境変化が進む中において、原子力の分野においても廃炉技術等を活かした革新的な技術開発を促進することが求められる。本補助金は、民間企業等が実施する安全性・経済性・機動性に優れた原子力技術の高度化に資する技術開発に要する経費に対して、当該経費の一部を補助する事業の実施に要する経費を補助することにより、社会的要請に応える原子力技術の開発を促進し、我が国の原子力の信頼回復、産業基盤の強化を図ることを目的とするものである。当団体では本補助金の執行団体として、補助金の事務局を担った。主な執行概要は以下の通りである。

（補助事業の採択件数・金額）

- 補助事業数： 12 事業
- 補助金交付実績額： 769,999,000 円

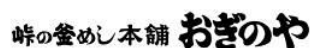
2021 年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

■ 商品の売上げや、サービスによる収益の一部からのご寄附・ご支援



ザ・パック 株式会社

EFF が植林活動を開始した 2000 年から商品売上げの一部で国内森林保全活動を継続してご支援いただくと共に、整備活動にも参加いただいています。



株式会社荻野屋

国内環境保全活動を環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。

服部製紙株式会社

国内・海外の環境保全活動に環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。

■ 各プロジェクトへのご寄付・ご協賛



中外製薬株式会社

国内森林保全活動（静岡県川根本町）に、ご協賛・ご参加頂いています。

■ その他事業は、今年度は実施せず。